

68 成ヶ島

ランク: A

生態系区分
内湾

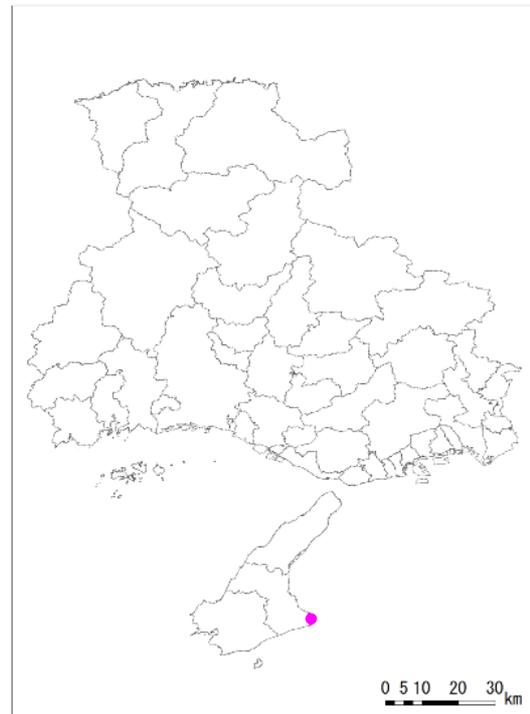
区分レベル
大

市町名
洲本市

場所
由良

選定理由

希少性	多様性	特殊性	脆弱性	分布限定性	人との関わり	複合性



保全制度
国立公園

概要

紀淡海峡に位置する由良湾にはさまざまな外洋性の海産生物が進入し、生息の場としている。一方、由良と成ヶ島に挟まれた湾内には干潟を含む浅場が発達し、地下水の湧出もあり、アマモ、コアマモ、ウミヒルモが生育する藻場が形成され、強内湾性の底生生物がきわめて多数生息している。その中には、瀬戸内海の他地域ではほとんど姿を消した貴重種が数多く含まれている。

海岸には、湾内や成ヶ島西側では塩地性植物のハマツナやウラギクが生育する塩湿地、県下有数の規模のハマボウ群落、礫質の砂州上のウバメガシ群落、東側の波あたりのある礫浜とそこに広がるハマゴウ群落、島の北端と南端にはトベラ等の海岸低木林など様々なタイプの生態系が凝縮している。島内の樹林にはギュリキマイマイが生息し、近年はアカウミガメの産卵も確認されている。

独特の地形と人為の影響の少なさがこのような自然を育んできたと考えられる。近年この地域の生物多様性が評価されるようになるとともにエコツーリズムの対象地とされているが、島・湾ともに規模が小さく、生態系としての脆弱性が懸念される。



写真提供：山西良平